

2010年度 部落問題学習研究委員会 まとめ

I. はじめに

昨年度、本研究委員会は、「高校の部落問題学習は、歴史学習ではなく、現状認識から出発する必要がある」と提起した。本年度も「いかに部落問題学習を行うべきか」という大きなテーマをひきついで、最終的には「部落問題学習の指導案づくり」を目標にして、「部落問題学習の切り口とテーマを考える」という主題をもって研修と研究をすすめてきた。

II. とりくみの経過

第1回 5月28日 橿原市中央公民館

「部落問題学習の切り口とテーマを考える」

研究協議：『部落差別はなぜ今あるのか？ 部落史がかわった Part.2』（上杉聡講演録）の読み合わせ。研究大会提出レポート『「部落問題認識」についての授業のとりくみ』（奈良朱雀・舟津）の説明。

第2回 6月25日 橿原公苑宿泊所

「地域社会の現状と部落差別について考える」

研修：「地域社会と部落差別」（吉田栄治郎講演）

部落問題の現在とその克服、共同体や習俗空間の問題などについての講演と質疑応答。参加者からは、「宮郷」など地域共同体について詳しい説明が求められるなど、「差別する側」のシステムと実像を明らかにしようとする質問がめだつた。

研究協議：前回につづき、『「部落問題認識」についての授業のとりくみ』の説明。

第3回 9月17日 橿原市中央公民館

「地域社会において、被差別部落はどのように変化してきたか」

研究協議：『大和同志会回顧録』（昭和17年）などの資料をもとに、近代から現代にかけての被差別部落の変化の実態をどうみるか。まず、研修資料の提示をするべきであるという方向を決定する。

高人教研究大会分科会アンケートを参考に、第1分科会A分散会の総括を検討する。

第4回 10月22日 橿原市中央公民館分館

「部落問題をどう教えるか」

研究協議：第37回奈良県人権・部落解放研究集会第2分科会で報告された「部落の実態調査結果」のしめすものについて考える。研修資料作成の目的について検討。

第5回 1月14日 橿原市中央公民館分館

「総括案および研究レポートの検討」

研究協議：研修資料『部落問題をどう教えるか？』の検討。大和中央高校での人権教育集中ホームルームのまとめを通じ、生徒たちが実際に部落差別とどのように出会っているのかについて、報告を受ける。

III. 研修・協議のまとめと今後の課題

1. これまでとちがって、「部落問題の現状認識を、どのように授業やホームルームに導入するか」ということに研究協議を絞りこむことができたが、その中で出てきたのは、「高校生を直接指導する一般の教職員が、どのように現状を認識しているか」という問題であった。そこで、今年度の到達目標を「教職員の研修資料を提案する」、ということにした。研修資料『部落問題をどう教えるか？』を提示した。今後、各校でのとりくみに役立てることができれば幸甚である。

2. また、何人かの研究委員から生徒の現状認識についての報告が研究委員会でなされ、さらに運動団体の研究集会で地域実態調査の報告が出されるということもあった。これをうけて、『教職員研修会資料』を作成した。それは、教職員の部落問題認識に大きな変更をせまるものであるかもしれないが、今後各校、各所属でおこなわれる、部落問題学習についての研究の一助としたい。

3. 「高校の部落問題学習は、現状認識から出発する必要がある」という提案は、ながらく歴史学習に特化されてきた高校での部落問題学習の中では、まだまだ理解されたとは言い難く、研究も不十分である。今後、さらなる研究と啓発が必要とされている。